

急性腎不全

英語名 : Acute renal failure

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

腎臓の働きが短期間に低下する「急性腎不全」は、^{きゅうせいじんふぜん}解熱鎮痛薬、^{げねつちんつうやく}抗生物質、抗菌薬、造影剤、抗がん剤などの医薬品の使用により引き起こされる場合があります。

医薬品を使用後に、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「尿量が少なくなる」、「ほとんど尿が出ない」、「一時的に尿量が多くなる」、「発疹」、「むくみ」、「体がだるい」

1. 急性腎不全とは？

急性腎不全とは、いろいろな原因で腎臓の機能が短期間に低下することをいいます。腎臓の一番大きな役割は、老廃物や余分なナトリウム、塩素、カリウムなどを尿として体の外に排泄することです。急性腎不全になると、老廃物が血液中にたまり高窒素血症こうちっそけっしょうという状態になり、重い場合、人工透析をしないといけない状態になります。急性腎不全になると、通常尿量が少なくなり（乏尿）、ほとんど出なくなったりします（無尿）が、逆に一時的に増えることがあります（多尿）、尿量のみでは診断できないので、高窒素血症があることを血液検査で確認してから診断することが重要です。

慢性腎炎や糖尿病性腎症によりゆっくりと進行する慢性腎不全と異なり、急性腎不全になった場合にはその原因を除くことにより、多くの場合進行を止め、改善させることが可能です。早期発見と早期対応が、重症化を防ぐ一番よい方法です。

2. 早期発見と早期対応のポイント

原因と考えられる医薬品を服用・使用して数時間以内に発症することもありますし、数年経ってから発症することもあります。服用・使用している医薬品により、発症する時期がある程度予測できますので、医師・薬剤師等の説明をよく聞いてください。もともと腎臓の機能が正常でない場合（慢性腎不全）、発熱、脱水（飲水量が少ない）、食事の量の減少、複数の医薬品の服用、誤って多量服用した場合などに、急性腎不全を発症しやすくなります。

「尿量が少なくなる」、「ほとんど尿が出ない」、「一時的に尿量が多くなる」、「発疹」、「むくみ」、「体がだるい」などの症状がみられた場合で、医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡するか、医師の診察をすみやかに受けて下さい。

また、症状なく進行する場合もあるので、早期発見・早期対応の

ため、以下の医薬品を服用している方は、医師の勧める定期的な血液検査・尿検査を積極的に受けることが推奨されます。

- ・ ^{げねつちんつうやく}解熱鎮痛薬（非ステロイド性抗炎症薬）
- ・ 高血圧治療薬（特にアンジオテンシン変換酵素阻害薬）
- ・ 抗生物質（アミノグリコシド系抗生物質）
- ・ 抗菌薬（ニューキノロン系抗菌薬）
- ・ 造影剤（ヨード造影剤）
- ・ 抗がん剤（特にシスプラチン等の白金製剤） 等

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

